



学習環境における香りが学習効率や心理評価に及ぼす影響

講演番号
G-28

既往研究
→ 香りの違いによる影響の検討

連続噴霧 → 濃度一定

濃度が一定
長時間の滞在でも快適？
嗅覚順応
持続的な香りの知覚は難？

【臭気強度の経時変化】

問題点
嗅覚順応により香りの効果が薄れている可能性がある？

① 間欠噴霧による順応への効果

基本条件 間欠噴霧条件① 間欠噴霧条件② 連続噴霧条件

【各条件における臭気強度の経時変化の結果】

時間が経過しても香りの知覚が低下しない ▶ 順応が軽減されている！

本研究
→ 噴霧方法の違いによる影響の検討

間欠噴霧 = 香りの濃度の変動 × 噴霧間隔

【予想される間欠噴霧による効果】

- 香りの濃度の変化 → 順応を軽減
- 使用精油量が減る → 省コスト
- 時々香りを感じる → 作業中のリフレッシュ

数分に1回
オレンジスイート

② 学習効率及び心理評価に及ぼす影響

様々な学習状況を想定して3種類のタスクを行う

学習効率の向上
学習意欲の向上
課題の難易度に左右慣れや飽きが生じる
集中力の持続
学習環境の影響
ストレスや疲労の蓄積

【実験タイムスケジュール】

主観評価1 主観評価2 主観評価3

新キャンパスの自習室空間で香りの導入を計画

研究目的
学習空間に適した噴霧方法の提案

最終目標 ▶ 香りによって付加価値を高める空間の創造

休憩空間におけるにおい・照明環境が在室者の心理・生理反応に及ぼす影響

講演番号
G-29

背景 & 目的

背景
休憩空間で快適に過ごすことが知的生産性の向上につながると注目されている

目的
休憩空間で室内環境要素(におい・照明)が人体に与える影響を考察する

検討項目

実験条件

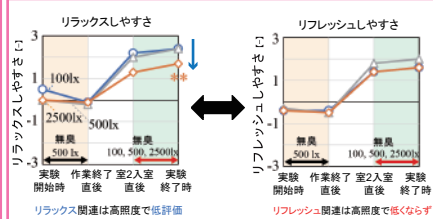
におい条件: ヒノキ, い草, アロマ
照明条件: 100lx, 500lx, 2500lx

測定項目

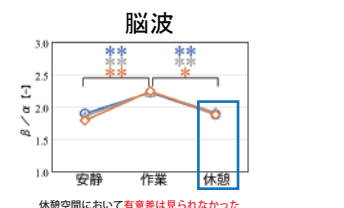
心理量測定項目: におい, 照明, 室内環境
生理量測定項目: 皮膚温度, 心拍, 脳波

結果

心理量測定結果

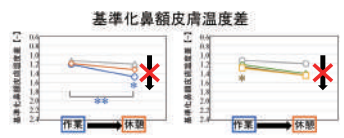
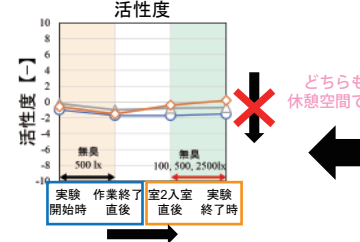


生理量測定結果



照明はリフレッシュしやすさに影響しない可能性

におい・照明が生理量に与える影響は小さい



休憩空間で雑誌を読むことがこの結果につながる可能性があり今後さらに検討をする

生理量と心理量に関連性がある可能性